

# 日本写真学会・写真感光材料工業会共催 2019年度 PHOTONEXT 技術アカデミー

プロ機材&フォトセミナー最大スケールの『PHOTONEXT 2019』がパシフィコ横浜で開催されます。日本写真学会と写真感光材料工業会は、今年度も「映像出力と表現技術」、「最新ミラーレスカメラシステムの技術動向」についての技術アカデミーを企画しました。フォトビジネスに携わる皆様、企業・学術関係者、写真愛好家など幅広い皆様のご参加をお待ちしております。

**主催：(一社)日本写真学会、写真感光材料工業会**

**日時：2019年6月18日(火) 10:00~17:00 (受付開始:9:30)**

**会場：パシフィコ横浜 展示ホール 2F 会議室 E204**

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 TEL 045-221-2166 (交通案内) / 045-221-2155 (総合案内)

交通：みなとみらい線：みなとみらい駅下車 徒歩約5分、JR・市営地下鉄：桜木町駅下車 徒歩約12分

**参加費：全セッション通し；7,000円、セッションⅠ；3,000円、セッションⅡ；4,000円**

(要旨集合含む) \*参加費は当日会場でお支払いください

**定員：50人**

**申込方法：■Web申込⇒ [http://spstj.org/event/form\\_nissya\\_event.php?id=204](http://spstj.org/event/form_nissya_event.php?id=204)**

E-mail、FAXによる申込も可能です(氏名、所属、連絡先、会員有無を明記下さい)

E-mail：[spstj@pht.t-kougei.ac.jp](mailto:spstj@pht.t-kougei.ac.jp)、FAX：03-3299-5887

**申込締切：2019年6月14日(金) \*定員になり次第締め切らせて頂きます**

## 【講演プログラム】

### 【セッションⅠ：映像出力と表現技術】

10:00~10:45 「いまさら聞けないカラーマネージメントの話」

日本大学芸術学部写真学科 甲田 謙一

カラーマネージメントという言葉が一般化したのは、デジタル写真が本格化した2000年前後からといえるだろう。カラーマネージメントは色の管理を行う上で欠かせない概念だが、カラープロファイルの知識など普通の撮影やプリントだけを行っている人には少し遠い世界の問題に聞こえるかもしれない。

撮影された写真はモニターで観察し、プリンタでプリントという作品を作る。今回はカラーマネージメントの基礎的な話と、最も基礎的なモニターとプリンタ(プリント)の色を合わせるカラーマッチングについて、考えてみることにしよう。

10:55~11:40 「写真の『リアル』な質感表現技術」

デジタルフォト研究会 岩本 康平

まるで本物そっくり、リアルだ...人がそう感じる写真や絵画などの作品にはいくつかの共通点があります。特に写真は瞬間を切り取った2次元のもの。しかし影や輪郭の見え方色合い等によって3次元を『実感』させることができます。実際にそうした卓越した技術を筆者は数多くみてきました。ここでは、そんな技術が何故人がその質感を認識するのか...について簡単に紹介していきます。

11:50~12:35 「被写体並びに表現方法別の機材選び」

写真家 相原 正明

- 1) 超高感度&高速 AF が可能にした、夜鉄の世界 Nikon D5
- 2) 風景写真の王道を生かす組み合わせ 広角レンズ+高画素カメラ FUJIFILM GFX LUMIX S1R
- 3) スーパー 50mm レンズによるコンセプト撮影 Carl Zeiss Otus55mm LUMIX50mm Nikkor58mm
- 4) フィルムスキャンにより4K時代に再び脚光 中判フィルムカメラの世界 PENTAX67
- 5) 手ブレ防止と高画素 2つの組み合わせで楽しむ旅フォト FUJIFILM X シリーズ
- 6) 電子無音シャッターだからこそ許される伝統芸能の世界 FUJIFILM X シリーズ

### 【セッションⅡ：最新ミラーレスカメラシステムの技術動向】

13:30~14:15 「最新ミラーレスカメラ事情」

日本カメラ財団 日本カメラ博物館 市川 泰憲

2018年から2019年にかけてレンズ交換式カメラは、一眼レフからミラーレス一眼へ変わる大きな節目となりました。ミラーレス一眼の歴史を簡単にたどると、2008年にパナソニックがM4/3規格「ルミックス G1」を発売、2010年にはAPS-C判のサムスン NX10が、2013年には35mm判フルサイズの「ソニーα7/α7R」が発売され、2018年には「ニコン Z7/Z6」、「キヤノン EOS R」、続く2019年には「キヤノン EOS RP」、「パナソニック S1R/S1」が発売されるなど活況を呈しています。ここでは、2018年フォトキナ以降の各社新製品への考察と、フルサイズの一眼レフとミラーレス一眼では何が違うかなど、実際に使用したユーザーの立場から感じたことをあげてみます。

14:25~15:10 「OM-D E-M1 シリーズの開発」

オリンパス(株)映像開発 カメラ開発 高瀬 正美

オリンパスでは、2013年10月にE-M1を導入し、プロ写真家を含めた多くのユーザーからのフィードバックを頂き、2016年12月にE-M1Mark IIを導入しました。常に、機動性と高画質を高次に両立させることをコンセプトとしておりますが、E-M1Mark II発売以降そのコンセプトに共感し本格的に仕事で使われるプロ写真家の方がさらに増え、更なる進化を期待される声が多く届くようになりました。その声に応えるカメラが今年2月に発売したE-M1Xです。オリンパスは、E-M1Mark IIとE-M1Xをプロフェッショナルモデルとして展開します。本セミナーでは、オリンパスのプロフェッショナルモデルを支える技術について紹介します。

15:20~16:05 「新次元の光学性能を目指したZマウントシステムの開発」

(株)ニコン 光学本部 第二開発部 第二設計課 風早 聡志 / 第三設計部 第二光学課 真杉 三郎

ニコンは、フルサイズセンサー搭載のミラーレスカメラと、それに対応するNIKKOR Zレンズおよびアクセサリで構成する「ニコンZマウントシステム」を2018年9月に発売しました。Zマウントシステムは、大口径の新マウントの採用により、レンズ設計の自由度が格段に向上しています。この設計自由度の向上は、驚異的な光学性能を持つレンズや、開放F値0.95の極めて明るいレンズなど、多彩な高性能レンズを提供可能にします。本講演では、NIKKOR Zレンズの技術と性能を中心に、Zマウントシステムの特徴や魅力について紹介します。

16:15~17:00 「Lマウント採用フルサイズミラーレス LUMIX S1R/S1 の開発」

パナソニック(株) アプライアンス社 スマートライフネットワーク事業部

イメージングビジネスユニット 商品設計部 高橋 征契

パナソニックは、当社初の35mmフルサイズセンサーを搭載した「DC-S1R」「DC-S1」の2機種をLUMIX Sシリーズとして2019年3月に発売しました。Sシリーズは、ライカカメラ社の開発した大口径・短フランジバックのLマウントを採用することでレンズ設計の自由度が高められ、特長として(1)作品の幅を広げる高画質・表現力(2)撮影に集中できる直感的な操作性、様々な環境下にも適応した堅牢性 (3)卓越した描写性能と立体表現力を実現するLマウントとSシリーズレンズについて本製品のコンセプトや開発・参入の狙い、Sシリーズを支える技術とともに紹介します。

\*テーマ及び講師については、予告なく変更する場合がございます

### 【問合せ先】

〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大学内 日本写真学会事務局

E-mail: [spstj@pht.t-kougei.ac.jp](mailto:spstj@pht.t-kougei.ac.jp) Tel: 03-3373-0724 Fax: 03-3299-5887

〒106-0031 東京都港区西麻布2-26-30 富士フィルム西麻布ビル1号館 写真感光材料工業会

E-mail: [kanzai.aoki@mbr.nifty.com](mailto:kanzai.aoki@mbr.nifty.com) Tel 03-6419-7241 Fax 03-6419-7264